

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の進路選択に適合する教育課程を編成し、組織的な授業改善に取り組む。 ②情報活用能力、論理的思考力や他者と協働した問題解決能力を身につけさせる授業を実践する。	①探究的な学びを発展させて生徒の進路希望を実現できるよう、組織的な授業改善に取り組む。 ②すべての教科において、プログラミング的思考力の育成を推進する。	①課題の設定から問題解決までのプロセスを意識させる授業展開を研究する。 ②教科指導や探究の時間、学級活動など、あらゆる場面でプログラミング的思考力が育まれるような活動を展開する。	①組織的な授業改善に取り組むことができたか。 ②プログラミング的思考力や他者との協働による問題解決能力を育成できたか。	①②全ての職員が授業改善のための研修を行い、生徒のプログラミング的思考力を養う授業が展開できつつある。他校からの見学者とも研究協議を行い、改善点等を共有した。	①②研修担当の負担が大きくなっているのが課題である。教員の意識も徐々に高まりつつあり、教科や学年ごとに伝達の間や協議の場を設けるなど、主担当の負担なしで、自発的に行えるような流れにしたい。	①一人一台端末などを利用しながら、ICT機器を活用した授業に取り組んでいる様子が見られる。ICT機器が苦手な職員も取り組めるよう支援体制を築いてほしい。 ②プログラミング的思考力は社会へ出てから必要な力なので、今後もしっかり取り組んでほしい。	①一人一台端末を活用するなど生徒に調べさせたり、考えをまとめさせたりして発表させる授業も増えてきたが、全職員で取り組めているとはいえない。 ②研修や研究授業を通して職員のプログラミング的思考力に対する意識が向上した。その成果が授業にも表れ、生徒にも意識の向上が見られた。引き続き取り組みを継続していきたい。	①全体での研修と教科内での研修を充実し、教科での指導方法や教材について話し合いの機会を持つようにする。 ②今年度成果が表れてきたので、引き続き同様に取り組んでいく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。 ②生徒の自己肯定感及び自己有用感を育成し、コミュニケーション能力を身につけられる指導を実践する。	①生徒一人ひとりの状況を把握し、必要な支援を行う。 ②生徒が様々な人と関わることで、社会性を身につけ、自己肯定感や自己有用感が向上するよう支援する。	①面談等を通して把握した生徒情報を、担任、学年団、教育相談コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラーと共有し、外部機関と連携しながら対応する。 ②部活動、生徒会活動におけるボランティア活動に加え、一般生徒のボランティア活動への意識向上を図り、ボランティア活動参加の機会、参加生徒数を増やす。	①生徒情報を学年会やグループ会議、生徒情報連絡会で共有し、必要に応じて外部機関と連携したか。 ②地域との連携活動やボランティア活動への参加生徒数が増加したか。	①支援が必要な生徒に対して、生徒情報連絡会や学年会で情報共有することができた。SCとの面談も予約が埋まる状況であり、担任や学年、教育相談コーディネーターの取組は充実している。一方で、生活面で課題のある生徒について、支援の必要がある場合が複数件見受けられた。 ②コロナ禍ではあったが、慎重な感染対策を行い、状況に応じて各部が工夫してボランティア活動等へ参加し地域との連携を図った。今後も状況に応じた取組を行っていききたい。	①教職員一人ひとりが、生徒の小さな変化を見逃さないように注意深く観察することで、支援の必要な生徒に気づいて支援へつなげていく。 ②近隣の商店街や中学校などは好意的に対応してくれるので、生徒が主体的に活動する姿勢を育成していきたい。	①支援を必要とする生徒は今後も増加していくと思われる。そのような状況に対応できるよう準備してほしい。 ②部活動の生徒を中心に商店街の催しや中学校の行事に協力していただき感謝している。今後さらに活発になっていくことを期待する。	①教育相談コーディネーターが中心となって支援が必要な生徒の情報を職員間で共有し、対応することができた。支援の内容が複雑化し、校内やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーだけでは対応ができず、役所等との連携が欠かせないケースもあり、対応が難しくなっている。 ②ボランティア活動への参加が部活動単位になってしまっているため、一般生徒でも参加しやすい活動を行っていく必要がある。	①スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置が原則週一回となったので、連携を密にとって支援していく。 ②コロナ禍から平常に戻ってきているので、「お掃除大作戦」を復活させるなど一般生徒が参加しやすい環境を整備する。

	視 点	4 年間の目標 (令和 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 2 日実施)	総合評価 (3 月 31 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	より質の高い進路目標を生徒が自ら設定し、自主的に準備に取り組めるよう進路指導の充実を図る。	生徒が主体的に自らの進路選択をし、それを実現できるような指導・支援を充実させる。	生徒が主体的に進路選択できるよう、進路説明会の実施や最新の情報提供、個別指導などの丁寧な進路指導を行う。	「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」において、キャリア教育の成果に係る回答の満足度が、85%を超えているか。	「魅力と特色ある県立高校づくりについて」のアンケートにおいて、キャリア教育の成果に係る質問に対する回答の満足度が88.3%であった。この満足度をさらに高めるために、丁寧な面談面接等、対面での指導を充実させていく必要がある。	今年度の反省点や要望を踏まえて、改善点の洗い出しを行うとともに、職員全体で進路指導に当たるシステムを構築する。近年大学の学部学科の改変等変化が著しいので、最新の情報収集に努める。今年度よりスタディサプリを導入したので、その有効活用を具体化し、生徒の学力アップにつなげる。	面接を回数多く実施できていることは評価できた。様々なことが原因で悩みを抱えている生徒がいると思うが、丁寧に対応してほしい。	説明会や面接などを通じて適切な進路情報を伝えることはできた。その一方で推薦や総合型選抜で進学を目指す生徒が数多くいるが、「行ける学校」ではなく「行きたい学校」へ進学できるよう指導を行っていく必要がある。	1 学年から自学自習の習慣を身に付けさせるために、予習・復習や宿題を課していく。そのためにはスタディサプリの活用を促していく。
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	本校への理解を深めてもらうために、本校の教育活動を積極的に広報するとともに、地域に開かれた学校として地域との信頼関係を築く。	①学校説明会などとおして本校の教育活動を理解してもらう。 ②HPの内容を充実し、こまめに更新する。	①参加者に満足してもらえたか。 ②HP をこまめに更新できたか。	①学校説明会のアンケート結果では、概ね満足していただいた。 ②説明会について、問合わせの多かった点を改善でき、スムーズに参加申し込みを行うことができた。	①次年度は体育館改修が入るので、その状況に対応するべく工夫を重ねる。 ②引き続き、改善をしていく。	①②数多くの志願者がいるという事実から、学校の魅力は中学3年生には伝わっているようである。一方、近隣の町内会からは「住吉高校の活動が見えてこない」という声を耳にする。この点は協力できるので声をかけてほしい。	①学校説明会には多くの参加者に来校していただいた。令和5年度は体育館で説明会を行えないので、参加者に満足していただけるよう工夫していきたい。 ②内容によっては HP の更新が遅くなってしまうものもあった。	①学校を直接見てもらえる機会を設定するなど工夫をしていく。 ②HP の更新を確実に行えるように定期的に確認する機会を設ける。
5	学校管理 学校運営	すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。	高校教育を取り巻く様々な課題に協働して対処していく体制をつくる。	一人一台端末やBYODを活用した授業スキルを身につける。	一人一台端末やBYOD を活用した授業に取り組めたか。	各教科が課題発出や提出物などにグループクラスルームを積極利用しており、情報収集にも役立っている。	年度末に今年度の振り返りを行い、改善点や活用事例を共有していく。	一人一台端末を活用している様子がよく分かった。今後も工夫を凝らして取り組んでほしい。	一人一台端末の活用などは広まってきたが、グループ活動に活用されているとは言えない状況である。	Jamboard のように、まだあまり活用されていない機能を使うなど工夫して、グループでの共同作業を行うなどして深い学びにつなげていく。